

【ねがいましては】

平成21年11月25日

KYOWA SCHOOL

第229号

「自分が決める」

『しあわせは いつも じぶんのところが きめる』 相田みつを

どんなに経済的に恵まれていても、その家の中に暮らす人々の気持ちが貧しくては幸せを感じることはできません。お母さんの役割は重大です。しあわせを家族皆が感じられる雰囲気作りに、母の一言は大きくかわります。けっしてお芝居であってはならないわけで、しあわせが自然に全身から漂います。

私は今の仕事を続ける中で、いくつかのキーワードを見つけてきました。専門に研究している学者ではないので、これをお読みにになった、その分野の方々からはご批判をいただきたいと思います。私と子どもたちとの毎日の触れあいの中から、そしてご家族の方々との触れあいの中から、〇〇だな・・・と、感じたことなのです。

家族のしあわせにつながるキーワード、その1、『距離』・・・かなり前にも【ねがいましては】で取り上げたのですが、ある評論家の方が語っていたこと、大きな船で旅をなさっているご家族が2組います。アメリカと日本、アメリカの方は2歳くらいのわが子にひもをつけ、歩かせています。わが子を見つめる目は、母のその目です。一方、日本の方は、わが子の手をしっかりと握りしめ、友人と話に興じています。

安全は大切なものです。しかし、母の安心感ばかりが優先されてしまう安全は、子にとってストレスを感じる場合があります。

私はアメリカの方の子育てに、一杯やられたと思いました。これはその後の子の成長にも大きく影響すると思います。ころぶ・・・自分で起きようとする。そしてころぶ・・・起きる。アメリカの子は、やがて転ばない歩き方を身につけます。一方、手を握ったまま・・・確かにころばない。しかし、母の手のない時に転んだ時、子は自力では立ち上がれません。

子はころぶことで痛みを知り、転ばない歩行術を自然と身につけていきます。何回もころぶことで、学習することは簡単ではないことを体で覚えていきます。それがやがて勉強の世界でも役に立ちます。間違えても、間違えても、何度もやり直ししながら正解を見出していきます。勉強することは何度も失敗し、くりかえすことなのだ・・・。

キーワード2つ目は、『親欲』・・・人は誰でも欲を持って生きています。出過ぎると欲張り、出さなければ謙虚、とでもなるのでしょうか。

さきほどの日本のお母さんは、わが子を守ってやっているんだ、という責任感からなののでしょうか。わが子への影響には全く気づいていません。やがて、お子さんが小学校へ入学、それを機に住宅を購入、しっかりとしたわが子の勉強部屋を設け、勉強机も用意しました。これだけのことをしてやっているのだから、しっかり勉強して良い成績を取りなさい、と言わんばかりです。親と子、別々の空間で生活します。子は自室で勉強、親はリビングでテレビを見、笑っている。子との距離は開き過ぎ、子は淋しさを覚えます。

「おかあさん、リビングで勉強していい？」・・・これは子が発する淋しいよ信号です。

人は物理的なものだけでは、しあわせを感じません。特に子は家族からの温かい心根に敏感です。物を与えていれば子は満足だ、とお感じになっているのだとしたら・・・。ゲームに興じるわが子は、けっして幸せな時を過ごしているとは思いません。何か言葉に変えられない淋しさを感じていると思います。

子どもたちは成長するにしたがい、成績に敏感になっていきます。テスト・順位・通信簿・・・どれもこれも明るいものを連想するにはほど遠いことばです。成績への『親欲』は、やがて子にも欲を引き起こすことになります。

つぎのキーワードは、『楽して』です。当たり前なのですが、辛いものに対しては、楽をしたいのは当然です。長い階段とエスカレーター、どちらを選択・・・もちろんエスカレーター。子どもたちにとっての勉強は、辛いものとして受け入れられていますので、当然『楽』を選択します。

そこで登場するのは、様々な成績アップ術を売り物にする具体物です。多種多様の教材や塾などでしょう。短時間に見違えるほど成績がアップするなどとキャッチコピーされれば、「えっ、楽して成績があがるかも・・・。」などと心が揺さぶられます。

本来の勉強の持っている真意からは、ほど遠いところへ追いやられます。子も親も・・・。

学ぶことは楽をすることとは違うはずです。学ぶことは、「生きてやるぞ。」という生命力を育むことだと考えています。つまり前向きな心を育ててあげること。前向きでいられると、失敗してもへこたれる気持ちが生れてきません。じゃ一次はどうやってみようかな・・・。

物を手に入れる喜びよりも本物の学びを手に入れたときの方が、よりうれしいと思います。

子どもたちは、どんなデラックスな部屋の中で、どんな高額な机に向かうよりも、家族の中で、ほのぼのとしたムードに包まれながら、わかる喜びを手に入れることの方が、しあわせを強く感じると思います。

あたたかい家族、しあわせは自分が決める。子どもたちの笑顔が見えるようです。きょうも、この小さなリビングには真剣に向かう子たちがいます。どうだい・・・しあわせかい？・・・ありがとうね。